

INFORMATION *Circular*

THE JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

<http://www.bcasj.or.jp/jsdb>

HP記事随時更新中(サーキュラーより早い)!

求人記事・集会案内記事大募集中!!

■事務局変更のお知らせ	1
■DGD編集主幹変更のお知らせ	1
■事務局の担当を終えるにあたって	八杉 貞雄 2
■事務局を引き受けるにあたって	井出 宏之 3
■DGD編集主幹を引き受けるにあたって	浅島 誠 4
■日本学会議報告	星 元紀 5
■日本発生生物学会第33回大会のお知らせ	川村 和夫 14
■求人案内	23
■助成金案内	24
■集会案内	26
■データベースの紹介	29
■会員移動	30
■入会案内	33

NO.94

DECEMBER 1999

日本発生生物学会

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

東京都立大学理学系研究科生物科学

会 長：〒 606 京都市左京区北白川追分町
-8520 京都大学大学院生命科学研究科
竹市雅俊 (Tel: 075-753-4196)
(Fax: 075-753-4197)
(e-mail: takeich @ take. biophys. kyoto-u. ac. jp)

DGD編集主幹：〒 739 東広島市鏡山 1 - 3 - 1
-0046 広島大学理学部遺伝子科学専攻
嶋田 拓 (Tel: 0824-24-7446)
(Fax: 0824-24-7498)
(e-mail: dgdedit @ ipc. hiroshima-u. ac. jp)

事務局：〒 192 東京都八王子市南大沢 1 - 1
-0397 東京都立大学大学院理学系研究科生物科学専攻
Fax: 0426-77-2559 (生物科学事務)
e-mail: jsdb @ bcasj. or. jp
(幹事長) 八杉貞雄 (Tel: 0426-77-2572)
(庶務幹事) 福田公子 (Tel: 0426-77-2572)
(会計幹事) 西駕秀俊 (Tel: 0426-77-2573)

学会センター：〒 113 東京都文京区本駒込 5 - 16 - 9
-8622 財団法人 学会事務センター
日本発生物学会担当係 (Tel: 03-5814-5810)
e-mail: jsdb @ bcasi. or. jp

日本発生物学会への入退会、住所・所属変更、会費納入、および出版物（インフォメーション・サーキュラーなど）の郵送については、上記の日本学会事務センターに書面またはe-mailでお問い合わせ下さい。なおDGDにつきましては直接、ブラックウェルサイエンス社にお願いいたします (Fax: +61-39349-3016)。

サーキュラーへの投稿募集

日本発生物学会サーキュラーは会員の皆様の情報誌として年3回発刊されます。学会に対する提言、研究雑感、実験手法、学会見聞記、関連学会案内、書評等どのような内容でも結構ですので、是非事務局にお寄せ下さい。

平成12年1月から事務局が変わります！

新事務局は

東北大学大学院理学研究科生物学

〒 980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉

Tel: 022-217-6699

Fax: 022-217-6699

e-mail: jsdb@jcasj.or.jp (メールアドレスは変更ありません。)

(幹事長) 井出 宏之

(庶務幹事) 田村 宏治

(会計幹事) 出口 竜作

になります。お間違えのないようお願いいたします。

平成12年1月から Development, Growth & Differentiation 編集主幹が変わります！

新編集主幹は

浅島 誠 先生

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科生命系

Tel: 03-5454-6632

Fax: 03-5454-4330

e-mail: asashi@bio.c.u-tokyo.ac.jp

事務局の担当を終えるにあたって

東京都立大学・院理・生物科学 八 杉 貞 雄

平成10年の1月1日から2年間、西駕秀俊会計幹事、福田公子庶務幹事とともに事務局を担当しました。ずっと以前に庶務幹事を務めたときに比べると比較的時間が短く感じられるのは、実際の担当期間もさることながら、自分の年とともに時間のたつのが早く感じられるせいでしょうか。

この2年間は学会としてはさほどの大事件もなく過ぎたようですが、実はいくつか大きな変革を経験しました。一つは学会がホームページをもったことで、ホームページ委員になっていただいた阿形清和先生や栃内新先生のご努力でとても立派なものになりました。これは学会が広く世界に向かって情報を発信する場ができたという意味で大きいできごとだと思います。平成11年度の大会では演題受付もメールでできるようになり、学会も一気にコンピューター時代に突入（少しおおげさですが）です。学会事務センターもこのような事業に積極的に関与してくれました。またDGDの発行を依頼しているブラックウェル社も、DGDのオンライン化を行いました。

第2の重要な歩みは、会長の竹市雅俊先生を委員長に国際発生生物学会の準備委員会が発足したことです。これは事務局とは一応切り離された組織ですが、国際発生生物学会自体は日本発生生物学会が担当するという形式なので、事務局としても関心のあるところでした。国際発生生物学会は2001年に開催されますが、その成功を祈るや切なるものがあります。この年には国内の通常の大会はなく、国際発生生物学会と日本発生生物学会大会が合同で開催されます。この機会に、特に若い方々が広く世界に向けてアピールすることを期待しています。

第3のできごとは、あまりうれしくないことですが、昨今の我が国の経済的状況とも深く関わって、DGDにたいする文部省の助成金がかかなり削減されたということです。日本発生生物学会のようにあまり大きくない学会ではこの助成金に対する依存度が大きく、削減がつづくとかかなりつらい事態にならないともかぎりません。このような削減をくい止めるためには、一方では諸学会連合の運動が必要です。また一方では、結局のところはDGDの国際的な評価が助成金の決定にも重要であるという認識に立って、投稿数を増やし、できるだけ短時間で発行し、また特にカラー印刷費を廉価にする、といった努力を、嶋田拓編集主幹が続けてこられました。2000年から主幹が浅島誠先生に交代しますが、おそらくはこのような方針は変わることはないでしょう。会員の方々がDGDによい論文を

投稿して下さることがもっとも重要なのだということを、事務局からも申し上げたいと思います。

学会事務局の任務は、本来、会員の移動等の把握、会計、委員会等の開催、などであり、その大部分は現在は学会事務センターに委嘱しています。しかし学会の諸活動のいわば中心にいて交通整理をする役目は、やはり他の方をお願いすることができず、それがもっとも大切な仕事でした。そのことも含めて、西駕さん、福田さんには言葉では表せないご苦勞をお掛けしました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

事務局をお引き受けしたときにも書いたのですが、事務局はボランティアであり、しかもその存在が目立たないのがむしろ望ましいというものです。はっきりいうと事務局をお引き受けしてなにもいいことはありません。したがって次の事務局をどなたにお願いするかということで、私は長い間悩んでいました。幸い東北大学の井出宏之先生の研究室でお引き受けいただけるということになり、申し訳ないという気持ちとともに、ほっとしています。学会員の皆様は、事務局の存在に気付くことはあまりないだろうと思いますが、学会の円滑な運営にはやはり事務局というものが必要なのだということに留意して、井出先生と田村宏治先生の事務局に対して一層のご理解とご協力をお願いする次第です。

事務局を引き受けるにあたって

東北大学大学院理学研究科生物学 井 出 宏 之

平成12年1月より発生生物学会の事務局は仙台地区に変わります。幹事長が私、井出（東北大・院理・生物）、庶務幹事が田村宏治（東北大・院理・生物）、会計幹事が出口竜作（宮城教育大・生物）というメンバーで出発いたします。発生生物学会は近年発展を続けてきており、順風満帆で走っていると思っておりますが、それでもいくつか新しい問題があるようです。このような仕事には全く不慣れな上、地方という問題もありますが、竹市会長、浅島DGD編集主幹の足を引っ張ることにならないよう事務方を進めていきたいと思っております。今までの八杉幹事長らの事務局のようにてきぱきとは行かないと思いますが、よろしくお願い申し上げます。

DGDの編集主幹を引き受けるにあたって

次期DGD編集主幹 東京大学大学院 浅 島 誠

2000年1月から現DGD編集主幹の嶋田拓先生から、私とその任を引き継ぐことになりました。御存知のように嶋田先生をはじめとして歴代のDGD編集主幹をなされた先生方はその間、御自分のお仕事を一時的にstopしてまでも心血そそいで、DGDの編集作業に携わって御尽力されてきました。そのお陰でDGDも発生生物学の世界的な発展と重なって、順調に伸びています。現在、Impact factorは1.3~1.4のところにあります。これも歴代の編集主幹の御尽力と御努力の賜と思っています。現編集主幹の嶋田先生の責任と任務は並々ならぬものがあり、その御苦勞と大変さを思う時、現在、私がおかれている立場上、受諾すべきかどうか正直迷いました。しかし、竹市会長の推薦もあり、従来のDGDの良き伝統を引き継ぎつつも、新しい発生生物学の流れを取り入れていくという必要性から、私は微力ではありますが、この任を引き受けることにしました。この任を引き受けるにあたって会員の皆さん方にお願ひがあります。それはDGDを良くするためには何よりも会員からの質の良い論文の投稿が大前提になっています。もちろん会員外の国内外の投稿も歓迎いたしますが、まず、私達、日本の研究者が自分たちの学会誌で発表し、世界に質の良い研究論文を発信する努力と確信を持ちたいと願っています。いまのところBlackwell社や文部省との約束のため急に号数を増やしたりすることはできませんが、近いうちに年6号を9号ぐらいにして、投稿、審査、採択、発表までの過程をできるだけ早いものにしたいと思っています。また2001年は京都で国際発生生物学会が開催されます。竹市会長の許に日本の発生生物学会が大きく飛躍する時でもあります。現編集主幹の嶋田先生はじめ歴代の編集主幹に対してその労に感謝すると共に、私は微力ではありますが、できるだけ努力し、DGDを更に質の高い国際誌にしたいと思っていますので、皆様方の御協力を切にお願い申し上げます。

2000年1月からのDGDの論文投稿先

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科生命系

Development, Growth & Differentiationの次期編集主幹 浅 島 誠

Tel:03-5454-6632 (直通) Fax:03-5454-4330 (直通)

e-mail: asashi@bio.c.u-tokyo.ac.jp

日本学術会議報告 # 7

第4部会員 星 元 紀

1999年12月13日

この半年を振りかえって特筆すべき事は、次の2点である。

- * 第4常置委員会においてまとめられた「我が国の大学等における研究環境の改善について」という報告を受けて、第131回総会において「我が国の大学等における研究環境の改善について」という勧告（資料1）が10月27日に採択され、内閣総理大臣に手渡されるとともに、全閣僚に送付された。ご存知のように、勧告は日本学術会議が政府にたいして行う行動としては最も重いものである。なお、上記報告は動物科学研究連絡委員会の全委員に配布してあるのでご覧いただきたい。
- * 日本学術振興会が取り扱う科学研究費につき、分科細目別対応研連および審査員の推薦母体を下記のようにすることを動物科学研究連絡委員会で正式に決定した。この案は関連研連との話し合いでまとめたものであり、すでに第4常置委員会でも認められている。

ア. 対応研連（動物科学研連関連のみ）

理学 生物学分科

遺伝細目	遺伝学（窓口）、分子生物学
生態細目	生態環境生物学（窓口）、極地
植物生理細目	植物科学
生物形態・構造細目	動物科学（窓口）、植物科学
動物生理・代謝細目	動物科学
系統・分類細目	植物科学（窓口）、動物科学

複合領域 基礎生物科学分科

生物物理学細目	生物物理学（窓口）、結晶学
分子生物学細目	分子生物学（窓口）、微生物学
細胞生物学細目	細胞生物学（窓口）、微生物学
発生生物学細目	動物科学（窓口）、植物科学、分子生物学

イ. 審査員推薦（関連研連を通じて行うが12年度については以下のように決定）

第二段審査員

理学

生物学分科 動物、植物、遺伝、生態の各学会から同数ずつ委員を推薦する。

複合領域

基礎生物科学分科 生物物理、分子生物、細胞生物、発生生物の各学会から同数ずつ委員を推薦する。

第一段審査員

生物形態・構造細目 動物、植物の両学会から同数ずつ委員を推薦する。

動物生理・代謝細目 動物学会から推薦する。

系統・分類細目 動物、植物の両学会から同数ずつ委員を推薦する。

発生生物学細目 発生生物、動物、植物の各学会から3：2：1の比率で委員を推薦する。

以下、経時的に主な事項を報告する。

1. 5月21日に開催されたアジアのダイナミズム特別委員会において、星がガイアリスト21計画について説明した。委員から法学分野などにおいてもこの計画にコミットしたい旨の発言があった。
2. 5月31日に第17期第6回動物科学研連が開催され、第5回議事録を確認したのち、以下の報告ならびに議事があった。なお、一部は植物科学研連との合同会議とした。

(1) 諸報告

- 1) 委員長報告 委員長からメールにて事前に配布された報告事項（日本学術会議報告#6）を確認したのち、配布・回覧資料に基づき以下の補足追加報告があった。

!山岸委員の辞任にともなって和田委員が新任された。

"最近の学術の動向、地球圏-生物圏国際協同研究計画 (IGBP) 勧告案について、資料に基づいて報告があった。

#科学研究費について、平成12年度から審査員が倍増する旨報告があった。

\$その他、アジアのダイナミズムでガイアリスト21計画を説明した。

- 2) 各委員から次の報告があった。理学データNW (漆原)、IGBP (松本)、教育問題 (桑澤)、ISDB (岡田)、ガイアリスト21 (片倉)、海洋生物 (道端)、内分泌攪乱物質 (竹井)、動物命名法小委員会 (白山)、科研費の国際共同研究の廃止 (星)。

(2) 審議事項

- 1) 動物科学研究連絡委員会(第5回)議事要録が確認された。
- 2) 科学研究費補助金審査委員の推薦については、従来第4常置委員会が各学会に推薦依頼をしており、各研連は関与してこなかったがこれからは研連が関与することになる。審査委員が倍増したことに伴い、発生生物学細目の審査委員の推薦枠を従来の発生生物学会1:動物学会1:植物学会1を発生生物学会3:動物学会2:植物学会1にすることとした。動物生理・代謝細目の審査委員の推薦枠は動物学会4:比較生理生化学会2とすることとした。生物形態・構造と系統・分類の各細目については植研連と話し合うこととした。
- 3) 平成12年度科学研究費補助金「時限付き分科細目」案について、第4部からは生物多様性を第1順位で要望したが実現しなかったため、13年度についても引き続き生物多様性を提案することとした。
- 4) 会長から各部・委員会あて企画案の提案依頼があった平成11年度日本学術会議主催公開講演会については、成案のある委員が委員長を通じて提案することとした。

以下は植研連との合同会議で論議された。

- 5) 科学研究費補助金審査の変更について委員長から報告があり、審査制度について論議した。第二段審査員の配分は、関連研連との話し合いで、理学-生物学分科については、動物、植物、遺伝、生態の各学会から、複合領域-基礎生物科学分科については生物物理、分子生物、細胞生物、発生生物の各学会からそれぞれ1名ずつ委員を出すという委員長案が認められた。
- 6) 多細胞生物のゲノム科学の推進について、社団法人日本動物学会会長から要望書が出され、推進に同意した。
- 7) 海洋生物学の研究体制の現状が道端委員より報告され、これを巡って若干の意見交換をした。
- 8) 教育問題について、桑澤、浅島両委員から話題提起があり、学習指導要綱、ゆとり教育、理科教育予算、大学入試等について論議した。

再び動研連の委員会にもどり、

- 9) 学術用語集を学術情報センターが電子化する意向であることが浅島委員から報告され、それに伴う問題点を論議した。
- 10) 次回日程については、電子メール等で相談することとなった。
3. 第6回動物科学研究連絡委員会に引き続き、ガイアリスト小委員会、動物命名法小委員会が行われ、それぞれの活動計画の打ち合わせを行った。
4. 6月12 - 13日に、IUBS (国際生物科学連合; 生物科学研連が対応) の理事会がSan Pedro (Brazil)で開催され、Towards An Integrative Biology (TAIB) Program、Diversitas、Reproductive Biology and Aquaculture Program、Bionomenclature、Biology and Society等を中心に検討された。
5. UNESCO および ICSU による World Conference on Science (世界科学会議) が、6月26日 - 7月1日がBudapestで開催され、吉川会長などが参加した。Declaration on Science and the use of Scientific Knowledge (科学と科学知識の利用に関する世界宣言) が採択された。
6. 第4部会 (第17期・第10回) が7月6日に石川ハイテク交流センターで開催され、理学の振興、科学研究費補助金細目対応研連などが検討された。翌日、北陸先端科学技術大学院大学の見学をした。
7. 9月14日理学データネットワーク推進小委員会が開催された。(動研連より漆原委員が参加している)
8. 10月5日に内分泌攪乱物質に関する検討会拡大役員会 (代表: 上野民人第6部会員) が開催され、これまでの経過が説明されるとともに今後の方針が検討された。
9. 10月7日に理学総合連絡会議 (第17期・第4回) が開催され漆原委員が出席した。日本学術会議の改革、科学研究費補助金の分化細目別対応研連、理学の振興などが討論された。
10. 10月12日に第17期第7回動物科学研連が開催され、第6回議事録を確認したのち、以下の報告ならびに議事があった。なお、今回は日程の調整がつかず植物科学研連との合同会議は行わなかった。

(1) 諸報告

- 1) 委員長報告 委員長から配布された配布・回覧資料もとに報告があった。
- 2) 各委員から、次の報告があった。理学総合連絡会議 (漆原)、理学データNW (漆原)、教育問題 (浅島)、ISDB (岡田)、サイエンスミュージアム (松浦)、ガイアリスト21 (道端)、内分泌攪乱物質 (竹井)、動物命名法小委員会 (星)、

13年度科研費の時限付き細目に「生物多様性」が第4部から1位で申請された(星)。

(2) 審議事項

1) 第6回動物科学研究連絡委員会議事要旨が確認された。

2) 学術会議の改革および研連の改組について

現在学術会議改革案起草委員会で作製された改革案が総会に諮られる運びとなっている。この決定に深く関わるため、研連の改組についての議論は見送りとなった。

3) 実験動物について

「動物の保護及び管理に関する法律」改正の動きが強く、実験動物についても大幅な規制強化が意図されている。これによって研究が致命的な制約を受けることを防ぐための対応が議論され、委員長と幹事とで具体的な方策について検討することとなった。

4) 科研費審査委員の推薦について

対応研連・窓口研連としていくつかの細目に関して科研費審査委員を推薦することが決まったことに関連して、大所高所に立った判断で推薦するためにはどのようなシステムが望ましいかについての議論を行った。直ちに実行できる案がまたらなかったため、継続審議となった。

5) シンポジウム等の後援・共催について

次の2件の申込があり、いずれも後援することとなった。

①日本動物学会大会における理科教育問題シンポジウム(浅島)

②高等教育フォーラムシンポジウム(11/13,14)(浅島)

なお、日本味と匂い学会主催シンポジウムを「関連研連」として後援してほしい旨の申込が7月にあり、委員長の了承は得られていたが、助成そのものは不採択であった(渋谷)。星委員長から、「このような後援・共催の申込に関しては原則的に協力する」という基本姿勢が表明された。

6) 次回日程については、植物学研連と合同で開催できるよう電子メールで調整することとなった。

7) その他

①教育問題について、出席者の間でその重要性が議論された。浅島委員を中心としてワーキンググループを作り、検討を続けることとなった。

②学術会議の改革について、改革案が抜本的でないことに関する遺憾の意が道端委員及び他の委員から表明された。一方で、そのような案に学術会議全体で意見の一致を見ることは至難であるという現実も全体として理解された。

③星委員長から「学術の動向」に掲載する写真を編集室が募集している旨連絡があった。

11. 10月25 - 28日に第131回総会・連合部会・部会等が開催され、上記勧告の採択等が行われた。

12. 10月28日には、日本学術会議50周年記念式典・講演会・祝賀会が行われた。

なお、星は第4部以外に、第4常置委員会、食問題特別委員会、内分泌攪乱物質に関する検討会拡大役員会等に所属している。

以上

参考資料1

我が国の大学等における研究環境の改善について（勧告）

平成11年10月27日

第131回総会

1. 科学技術基本法の成立により、科学技術の振興は我が国の重要政策課題の一つとして位置付けられ、関連施策の総合的、計画的、かつ積極的な推進が進められることになった。基本法の成立に続いて、科学技術基本計画（平成8年7月2日閣議決定）が策定され、5年間（平成8年度～平成12年度）で17兆円の国費を投入し、大学等の研究環境の改善が図られることになった。同計画は、狭隘化、老朽化の著しい大学等を計画的に整備する必要性を指摘し、老朽化、狭隘化対策に1200万㎡の整備が見込まれるとしている。たしかに、この基本計画により文部省の科学研究費補助金（科研費）が増額され、国の出資金による各省庁からの研究費が大学等に新たに供給されるようになった。しかし、研究者の旺盛な研究意欲に対応するために必要な研究費及び基礎的な研究設備（教育用を含む。）やそれらの維持管理費等の不足の問題も依然として未解決であることを指摘しなければならない。現在、国の負担研究費の対GDP比率は、欧米の水準を下

回っており、少なくとも欧米並みの投資を確保すべきである。

大学の人員拡張は、戦後長年に涉って行われてきたが、大学関係の建物、施設の新設、更新は人員の拡充に追い付かず、多くの大学において不足状態が解消されないまま、極端な過密状態が続いている。特に自然科学系の実験室においては過密状態は著しく、研究者の安全、健康への影響が憂慮される状況である。多くの大学では、スペース不足のため、新鋭の機器の導入もままならず、スペース問題は研究活動を発展させる上で最大の阻害要因になっている。

科学技術基本計画において策定された1200万 m^2 の整備目標に対して平成11年度末までに建設される予定の建物は100万 m^2 に過ぎず、計画の達成は大幅に遅れている。今後残された期間において、整備を実現する計画は殆どまとまっていらないように見える。

スペース問題は、科学技術基本法にうたわれている、科学技術創造立国のために優先的に解決しなければならない課題である。

政府は、科学技術基本法立法の精神にのっとり、科学技術基本計画を実現するべく、最大の努力を傾けるべきである。

2. 国立大学に関しては、平成6年に、長期に涉って固定されたままだった基準面積が20%増に改定された。改訂された基準面積でも欧米の水準からすれば極めて不十分なものであるが、その基準面積に照らしても現状の建物面積は大幅に不足しており、その差は平成10年度において約500万 m^2 にのぼる。増大する大学院学生数に比べて建物の建設は大幅に遅れており、過密状態はますます悪化している。ちなみに、東京大学の全建物面積は約100万 m^2 であり、不足している建物面積は東京大学5校分、東京工業大学の規模では17校分に相当する。

3. 狭隘な環境は自然科学系の研究室に共通しているが、なかでも化学系、生物系の研究室は過密状態が著しく、消防法上の憂慮の絶えない研究室が多い。研究室の劣悪な環境は外国からの訪問者を驚かす程である。もし、阪神・淡路大震災級の大地震が過密な研究室で実験者の活動中に起きたとしたら、惨澹たる被害が発生するであろう。1995年に同地震を契機として耐震改修促進法が成立し、小中高校、及び官庁建築に対しては耐震診断、耐震改修が進んでいるが、大学に対してはほとんど対策は進んでいない。

一方、化学、生物系以外の自然科学系や、人文社会科学系研究室でも、情報機器導入のためのスペース不足など、従来の基準面積では収まり切らない問題が生じている。大学等における、安全で、ゆとりのある研究環境を実現することは緊急の課題である。

4. 現在の劣悪な研究環境を改善し、欧米並みの水準に近付けるために、自然科学系の研

研究室においては、望ましくは現有面積の3倍、最低2倍程度の建物面積が必要である。また人文社会科学系を含め、最近の研究の進歩により研究室使用の状況も大きく変化しているので、国立大学における建物基準面積は、研究従事者の増加、設置機器の高度化、図書館等の充実を含めた情報化対策等を考慮して妥当な水準に改定されるべきである。また、教育研究にたいして重要な役割を果たしている私立、公立大学にたいしても適切な助成が必要である。

5. 大学等における研究教育施設は重要な公共財であるとともに、我が国発展の鍵となる「新しい社会資本」である。最近、道路、港湾、鉄道、一般住宅等に対する在来型の公共投資が景気の回復に結びつかず、景気対策への有効性が薄れていることが指摘されており、情報、通信基盤が「新社会資本」として注目されている。大学等の建物への投資は、内部設備の充実を含めて関連する需要があり、継続的な需要が見込める。また、最新の研究設備で訓練された人材は、社会においてさらに新技術の開発を通じて需要の拡大に貢献する。さらに、大学は今後、知的欲求を持った市民に対する生涯教育など、地域文化基盤の形成にも貢献することが期待されている。しかし、現状では大学は十分な人的能力を持ちながらその能力を十分に発揮出来ない状況にある。大学に十分な資本投下を行い、その能力を十分に発揮させることこそ、長期的、継続的に果実をもたらし続ける、新社会資本の整備といえる。

大学等の施設に対するこれまでの投資の遅れを取り戻し、粗悪な老朽化した建物を改築するだけでも数兆円の巨費を必要とする。しかし、新社会資本への投資は、景気対策としてのみでなく、未来の日本を築くための重要な投資として考えられなければならない。施設に対する投資のこれ以上の遅れは今後の学術研究に重大な影響を及ぼすおそれ大きい。これは我が国の今後の科学技術の発展にとって放置できない重要問題である。

6. 現状でも大学等の建物に対する投資は大幅に遅れているが、大学審議会の予測では、今後大学院学生の大幅な増加が見込まれ、さらに外国からの留学生、企業からの研究生、ポストドクトラルフェロー等も今後さらに増加することが予測される。教育研究に対して重要な役割を担う大学の施設に対する手当てを十分行うことは、内外の優れた研究者にとって魅力のある環境を整備し、我が国の研究水準を確保する上で極めて重要である。

現在のような研究環境の劣悪化を招いた要因の一つは、このような状況に到ることを看過してきた大学人、研究者にもあるが、何と言っても大学における研究環境に対するこれまでの過少投資がこのような状況を招いたことは明らかである。

研究環境のこれ以上の劣悪化を防ぎ、国際水準に近付けるべく、一刻も早い対応措置

をとることが望まれる。

大学における学生人員の増加の前提として、土地の手当てを含め、思い切った先行投資が建物建設には必要であることを強く指摘しなければならない。

7. 利用可能な土地面積の限られている大学においては、建物の新設、更新は順繰りに実施する必要がある、立案と計画実現に時間を要する。最近の国立大学における建設例の多くは補正予算によるものであり、長期的視野にたって計画が実現されたものは少ない。研究スペースの確保は、土地の確保と建屋の高層化、地下利用の両側面によって実現が可能である。大学のキャンパスにおける建物の新設、更新は、大学側が十分に練り上げた将来計画に立って実現されなければならない。

8. まもなく、次期の科学技術基本計画を策定すべき時期が来ている。大学等における施設問題が科学技術進歩のための最大の阻害要因になっていることを認識し、安全でゆとりのある研究環境を実現するため、十分な投資が行われなければならない。

次期の基本計画では、合理的な中、長期整備計画を練り、十分な予算の手当てが大学等の建物建設と土地取得のための先行投資にたいして優先的、集中的に行われなければならない。

9. 科学技術の健全な発展には日本の将来がかかっている。さらに、全地球的な問題の解決には、我が国の科学技術の貢献が必要である。そのための最も重要な基盤である研究施設の充実を強く訴えたい。

本信送付先

内閣総理大臣

本信写送付先

内閣官房長官

法務大臣

外務大臣

大蔵大臣

文部大臣

厚生大臣

農林水産大臣

通商産業大臣

運輸大臣
郵政大臣
労働大臣
建設大臣
自治大臣
国家公安委員会委員長
北海道開発庁長官
経済企画庁長官
科学技術庁長官
環境庁長官
沖縄開発庁長官
国土庁長官

日本発生生物学会第33回大会のお知らせ

日本発生生物学会第33回準備委員会
委員長 川 村 和 夫

第33回大会は、2000年5月25日から27日の3日間、高知市の県民文化ホールおよび高知会館において開催いたします。皆様のご参加を心からお待ちしております。

1. 期日：2000年5月25日（木）～27日（土）
2. 会場：高知県民文化ホール（シンポジウム・総会・本部）
高知会館（ポスター発表・懇親会）

3. 参加登録申込方法：

* 大会参加申込・研究発表申込ともに、昨年度の大会に準じて行います。

（1）本大会は大会参加申込書を使用せず、振替用紙のみによる申込といたします。発表

をされない方（連名の発表もない方）は、振替用紙による申込のみとなります。

- (2) 大会参加費は前納（締切日2000年2月29日）の場合は同封の振替用紙をご使用のうえ、一般会員6,000円、学生・院生4,000円をお支払いください。なお、3月1日以降は当日受付と同額の一般会員7,000円、学生・院生5,000円となりますのでご注意ください。
- (3) 懇親会は大会2日目の5月26日に行います。参加をご希望の方は、参加費と同様に振替用紙をご使用のうえ、6,000円（一律）をお支払い下さい。場合によっては当日の受付ができないこともありますので、できるだけ事前にお申込ください。
- (4) 大会参加費等払込の領収書は、振替用紙の控えをもってかえさせていただきますので、ご了承下さい。

4. 研究発表申込方法：

- (1) 申込期限は2000年2月29日（火）〔当日消印有効〕です。
- (2) 研究発表は日本発生生物学会会員で2000年度までの会費納入者に限ります。現在学会会員でない方で発表を希望される方は、学会への入会手続き（入会金納入を含む）を行って下さい。

(3) 発表形式：

ポスター発表：パネルサイズは横90 cm x 縦180 cmです。形式は特に定めませんが上部にタイトル、発表者名・所属を掲示してください。押しピン等は準備委員会で用意します。

口演：シンポジウム形式で口演をお願いします。各シンポジウムの演題数によって発表時間が異なる可能性があります。大会準備委員会から連絡をしますので、ご確認下さい。なお、本大会ではスライドあるいはOHPを用意いたします。それ以外の機器を使用される場合はあらかじめ準備委員会にご相談下さい。

- (4) 発表を希望される方は、ホームページによる方法もしくは申込票による方法（後述）で、まず希望発表形式をお選びください。シンポジウムかポスターのどちらかを選ぶことができます。シンポジウムを希望された方は下記の6つのシンポジウムの中から希望するものを2題まで選ぶことができます。なお、時間的制約等でご希望に添えずポスター発表にお回りいただく場合もありますのでご了承下さい。シンポジウムのタイトルとオーガナイザーは以下のとおりです（オーガナイザー名の50音順）。

◆ 発生・再生を支える幹細胞システム（阿形清和・姫路工業大学理学部）

◆ 生殖にかかわる細胞の特質（小林悟・筑波大学生物科学系）

- ◆ 発生システムの進化 (佐藤矩行・京都大学大学院理学研究科)
- ◆ 器官構築とその再構築 (田村宏治・東北大学大学院理学研究科)
- ◆ 発生・再生を司るシグナル分子 (野地澄晴・徳島大学工学部)
- ◆ 神経発生のメカニズム～神経細胞の分化から回路形成へ～

(能瀬聡直・東京大学大学院理学研究科)

(5) 研究発表申込みについて大会準備委員会からのお願い (必読)

昨年のサーキュラー (No. 91) でお知らせしたとおり、国際発生生物学会年会を兼ねる2001年の年会では、参加・発表申込受付がすべてホームページによって行われることになります。ホームページ化に伴うトラブルや不都合を最小限に抑えるため、従来方式と新方式を併用しながら3年かけて徐々に新方式に移行する予定です。

2年目の今年は、昨年よりもホームページにウェートを移し、参加・発表の申込みのみでなく、発表要旨の投稿もホームページによる申込みをメインにさせていただきたいと思います。これにより、プログラムは完成とほぼ同時に日本発生生物学会のホームページに掲載され、さらにそこからリンクした形で要旨の閲覧も可能になります。また、要旨集の作成に関わる印刷会社との原稿のやりとりもオンライン化される予定です。

みなさま、できるだけホームページで参加・発表申込と発表要旨の投稿をしていただけますようお願い申し上げます。ホームページでの要旨投稿の手順については下記のチェック表を参考にしてください。

《研究発表申込手順のチェック表》

- ☐ 日本発生生物学会のホームページを開いて発表申し込み手続きを行う。(2000年2月14日から2月29日の期間に受け付けます。)
- (1) <http://www.bcasj.or.jp/jsdb/> を入力して日本発生生物学会のホームページを立ちあげる。
 - (2) 日本発生生物学会大会案内のボタンをクリックして大会のページに移動し、さらに発表申込のボタンをクリックして申込ページを表示する。
 - (3) 演題ごとに1人の連絡者を決め、その方を登録する。(以後の登録確認、パスワードの配布などはここで登録した方に対して行われます。連絡は主にメールを使って行うのでメールアドレスのある方を連絡先としてください。)
 - (4) 指示に従って、演題名・発表者氏名・会員番号 (このサーキュラーの送られてきた

封筒の宛名ラベルに明記されている)・希望発表形式(ポスターか口演かを選ぶ)・希望発表分野・連絡先を記入する。

(5) 続いて、要旨の本文テキストをコピー＆ペーストで貼りつける。(注：ホームページによる投稿では、図や写真は今のところ対象外です。また英語以外の外国文字、特殊文字、記号、外字などは“文字化け”しますので使わないで下さい。今回は、ホームページで投稿していただいた要旨がホームページ上での閲覧と印刷の両方に使われます。)

(6) プレビュー画面で記入を確認し、必要な訂正をした後、送信ボタンを押しますと、受付番号が表示され、登録は完了します。(受付番号は必ずメモしてください。修正のときに必要になります。)(注：送信後に変更あるいは記入ミスに気づいた場合は、申し込み区分を修正とし、受付番号を記入した後、正しいものを記入し、再度送信してください。その際、連絡欄に理由を記入してください。)

☐ 演題申込受領書と研究発表の連絡書に必要事項を記入し、50円切手を貼る。

☐ 下記の大会準備委員会へ簡易書留で2000年2月29日までに郵送する(当日消印有効)。(同封の大会発表申込票と、印刷した発表要旨は不要です。)

(注：ホームページの画面はバージョンアップのために予告なく変更されている場合がありますが、前もってご了承下さい。)

《以下はメールによる研究発表要旨投稿の手順です。》

☐ メールに書き込む内容は、上記のホームページによる投稿に準じます。研究発表要旨を作成し、演題・発表者氏名・所属・会員番号、および連絡者氏名・メールアドレスとともに、メールで以下のアドレスまで送信する。(メールの場合も特殊文字等は使用しないでください。またHTML形式のメールや添付書類も送信しないでください。)

要旨の送信先アドレス： jsdb-am@bcasj.or.jp

☐ メールで発表要旨を投稿する場合も、演題申込受領書と研究発表の連絡書(50円切手を貼る)および大会発表申込票を、下記の大会準備委員会へ簡易書留で2000年2月29日までに郵送する(当日消印有効)。プリントアウトした発表要旨は必要ありません。

《以下はホームページやメールを利用しない場合の手順です。》

☐ 研究発表要旨を作成し、従来どおり演題名・発表者名・所属を記入後、要旨を指定の用紙にプリントアウト(あるいは手書き)する。

☐ 研究発表を3部コピーする。

☐ 研究発表要旨1部・要旨コピー3部・演題申込受領書と研究発表の連絡書(50円切手を貼

る)を確認し、大会発表申込票に記入したうえ、下記の大会準備委員会へ簡易書留で2000年2月29日までに郵送する(当日消印有効)。

(7) 研究発表申し込み書送付先

〒565-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル14階

学会センター関西内

日本発生物学会第33回大会準備委員会

TEL: (06)6873-2301 FAX: (06)6873-2300

E-mail: o-conf@bcasj.or.jp

5. ワークショップ募集:

大会前日の晩にワークショップのコーナーを設けます。内容、形式とも自由にお考えになって、「責任者の氏名」と「ワークショップの題名」「ワークショップ内容の要旨(形式は自由)」「参加予定人数」「使用機器」を2月29日まで(当日消印有効)に前記大会準備委員会までお申し込み下さい。なお、機器の種類によっては、用意できない場合もありますので、特別なものをご使用になる場合は、あらかじめ準備委員会までご相談下さい。また、会場の設営は各グループでお願いします。会員の皆さんの積極的な参加をお待ちします。

6. 総会と懇親会:

○総会: 大会2日目(5月26日)の16:30から約1時間、シンポジウム会場で行います。

○懇親会: 大会2日目の18:00から20:00まで高知会館、飛鳥の間で行います。

7. 大会期間中の宿泊等の案内:

サーキュラーに綴じ込みの「宿泊・航空券・お弁当のご案内」をご利用下さい。

日本発生生物学会第33回大会 宿泊・航空券・お弁当のご案内

会 期：平成12年05月25日(木)~05月27日(土)

会 場：高知県民文化ホール・高知会館

宿泊日：平成12年05月24日(水)~05月27日(土)

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度「日本発生生物学会第33回大会」が高知大学にて盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。つきましては、私共日本旅行高知支店が本学会大会準備委員会よりご下命いただき、皆様のご宿泊・航空券・お弁当のお世話を代行させていただくこととなりました。学会にご参加の方々にご満足いただけますよう充分な配慮をさせていただく所存でございます。是非ともご利用下さいますことを心よりお待ちしております。

お申込及びご送金のご案内

(1)お申込及び変更・取消し

◎別紙申込書にご記入の上、下記迄FAX(郵送)にてお申込ください。

(電話でのお申込、変更はトラブルの原因となりますのでご遠慮くださいませ。)

◎変更・取消しもFAXにてお願いします。(申込書又は当社よりの回答書に変更事項を記入下さい)

◎変更・取消しにつきましては、お申し出の日により取消し料が係ってまいります。(別紙一覧参照)

◎お申込締切日：平成11年05月01日(月)

※ホームページ <http://www.mtom.co.jp/kaientai/> メール ntakochi@mb.inforiyoma.or.jp

(2)当社よりの受付回答

◎ 宿泊は受付日より10日以内にFAXにて確定ホテルをご案内致します。航空券は受け付け内容を一緒に連絡致しますが、確定便名(時間)は1か月前にご連絡致します。(各便につき15名に満たない場合は普通運賃となります。ご了承ください。)

(3)お支払い

◎ 5月12日頃に宿泊予約券、航空券引換証、弁当引換券、請求書、振込み用紙をお送り致します。

受領次第内容確認の上お振込みください(振込み手数料はお客様負担をお願い致します)。クレジットカードにて精算ご希望の方は申込書に必要事項をご記入ください。(請求書送付時に引落)

(4)観光、その他のお問合せは学会開催中、会場内デスクにてお受け致します。

※申込み及びお問い合わせは

〒780-0870 高知市本町3-2-3

日本旅行高知支店

TEL:088-873-7311 FAX:088-873-7611

営業時間：平日09:30~17:30 土曜日09:30~12:30 祝祭日休業

担当者：宮地敬子／山田知幸／北添静香

宿泊のご案内

宿泊日：平成12年05月24日(水)～05月27日(土)

宿泊料金：お一人様 1泊朝食付き(諸税、サービス料込)

ホテル名	料 別	シングル	料 別	ツイン	電話番号
高知新阪急ホテル	A-1	12100	A-2	11500	088-873-1111
オリентホテル高知	B-1	9000	B-2	8500	088-822-6565
サンライズホテル	C-1	9000	C-2	8500	088-822-1281
国際ホテル高知	D-1	9000	D-2	8500	088-822-4111
高知ワシントンプラザ	E-1	10000	E-2	9500	088-823-6111
高知第一ホテル	F-1	10000	F-2	9000	088-883-1441
高知パレスホテル新館	G-1	7500	G-2	7000	088-825-0100
ビジネスホテル一兆	H-1	7000	H-2	6500	088-883-2166
ビジネスホテルタウングループ	I-1	6500	I-2	6000	088-825-0055

◎受付は先着順ですので、お早めにお申込ください。ご希望のホテル、部屋タイプが満員の場合は、同等クラスのホテルに変更して回答させていただく事もございますので御了承ください。

※昼食弁当のご案内

1個 1,000円(お茶付き)・・・毎日違ったメニューをご用意いたします。

会場内外にも食事施設は在りますが、収容人員に限りがあり時間内にご利用出来ない場合もありますので、是非お弁当の予約をお薦めいたします。

※取消し率(予約券送付後は改めて請求書をお送りいたします。)

取消料	10日前～前々日	前日	当日及び不泊
宿泊	20%	50%	1泊分の100%
弁当	前日16:00まで無料		100%

航空券のご案内

往 路 5/24				往 路 5/25			
記 号	出発地	便 名	発 時 間	記 号	出発地	便 名	発 時 間
H-1	羽 田	JAL125	17:20	H-3	羽 田	ANA561	08:30
H-2	羽 田	ANA569	19:00	H-4	羽 田	JAS241	10:00
N-1	名古屋	JAS483	16:00	N-2	名古屋	JAS483	16:00
F-1	福 岡	JAS867	12:00	F-2	福 岡	JAC151	08:30
I-1	伊 丹	ANK409	14:30	I-3	伊 丹	ANK403	08:55
I-2	伊 丹	ANK415	18:10	I-4	伊 丹	ANK405	10:30

復 路 5/27				復 路 5/28			
記 号	到着地	便 名	発 時 間	記 号	到着地	便 名	発 時 間
H-1	羽 田	ANA568	17:00	H-3	羽 田	ANA564	10:30
H-2	羽 田	JAL126	19:20	H-4	羽 田	JAL122	13:00
N-1	名古屋	JAS482	13:30	N-2	名古屋	JAS482	13:20

F-1	福岡	JAC152	16:35	F-2	福岡	JAS866	10:25
I-1	伊丹	ANK416	18:00	I-3	伊丹	ANK404	09:15
I-2	伊丹	ANK418	19:20	I-4	伊丹	ANK408	12:50

(平成11年12月のダイヤです。2月頃に正式な時間が決定します。)

航空券学会特別運賃(片道) 取消し料(学会運賃の場合) 17:00迄のお申し出に限りです。

路線	普通運賃	学会運賃	21日前まで	15日まで	7日前まで	前日まで	当日以降
羽田	23,750	20,000	無料	1920	3420	6420	9420
名古屋	19,300	16,000	無料	1420	2420	4420	6420
福岡	17,900	15,000	無料	1420	2420	4420	6420
伊丹	12,250	10,000	無料	1420	2420	4420	6420

学会割引運賃は1便15名以上の場合に適用となります。15名に満たない場合、普通運賃適用となり、1ヵ月前にご連絡致します。

人数調整の為、時間変更のご相談をさせていただく場合もございます。

宿泊・航空券・お弁当・申込書

お申込先：日本旅行高知支店 〒780-0870 高知市本町3-2-3 TEL: 088-873-7311 FAX: 088-873-7611
お申込締切日：平成12年05月01日(月)

日本旅行使用欄	
整理番号	

[illegible]

クレジットカードにて お支払い希望の場合	カード 店名	秘 照	支払方法 代表者一括 個人支払い	備 考
	カード 番号			
	暗証番号			
	生 月			

広島大学 理学部附属両生類研究施設 種形成機構研究部門 博士研究員募集

研究内容：当研究部門では生物の多様性獲得の分子機構を解明するために、種分化過程における、形態形成機構の変化を分子レベルで解析しています。また、細胞増殖因子や転写因子による形態形成の制御機構についても研究をおこなっています。実験には主として両生類（アフリカツメガエル、アホロートル、イモリなど）を使用し、オリジナリティーのある研究を目指しています。

募集対象：博士研究員（研究機関研究員）

募集人数：1名

採用時期：平成12年4月1日

待遇：月給約30万円、雇用保険

応募資格：遺伝子工学実験の経験があり、発生学、生化学、遺伝学、組織学などのバックグラウンドを持つ方。博士号保持、または採用時まで取得見込で、採用時35歳以下であること。

契約期間：一年契約（更新可、2年まで）

提出書類：履歴書、業績目録、主要論文別刷り（コピー可）、推薦者の氏名および連絡先

応募締切：平成12年2月20日（必着）

選考：書類選考後、面接（セミナーをお願いすることがあります）

書類送付先・連絡先：

〒739-8526 広島県東広島市鏡山1-3-1

広島大学 理学部附属両生類研究施設 種形成機構研究部門

助教授・鈴木 厚

TEL: 0824-24-7482 / FAX: 0824-24-0739

e-mail: asuzuki@sci.hiroshima-u.ac.jp

第31回（平成12年度）三菱財団自然科学研究助成応募要領

1. 助成の趣旨：近年の自然科学の進歩はめざましく、各学問分野の研究の深化はもとより、分野間の相互作用により次々に新たな研究領域が誕生しつつあります。このような状況のもとで本事業は、これらの科学・技術の基礎となる独創的かつ先駆的研究とともに、既成の分野にはとらわれず、優れた着想で新しい領域を開拓する萌芽的研究に期待して助成を行います。すぐれて独創的な研究は、医・理・工・農・薬等、自然科学の分野を問わず、全て助成の対象と致しますが、分野にまたがる新しい現象を模索する理論や、環境の基礎的研究も対象と致します。なお、この助成金は研究達成のため十分に活用できるよう、その用途をとくに制限致しません。

2. 助成の概要

- (1) 応募資格：本助成金は、原則として、一つのテーマとして独立した個人研究（但し少数グループによる研究も含む）を対象と致します。完全公募制であり、各研究者は自由に応募いただけますが、当該研究者が日本国内に居住し、国内に継続的な研究拠点を有する場合（国籍等は不問）に限られます。また、営利企業等関係者は対象外となります。
- (2) 助成金額：総額約3億円を予定。1件当たり2千万円以内とし、採択予定件数は30件程度を目処とします。なお研究の性質上比較的少額で足りる内容のものも十分考慮されます。
- (3) 助成金使途：制限はありません。通常の設定費、消耗品費、旅費等はもちろん、研究上特に必要な場合は、研究補助者への謝金等も可（但し当該研究代表者がすべての運用責任を持つ）とされます。
- (4) 助成期間：1年を原則とします。研究の性質上1年を超えるものについても、弾力的に対処致しますので御相談ください。
- (5) 助成決定後の義務・条件：選考の結果、助成を受けることに決まられた場合は、財団所定の「助成承諾書」を別途提出頂き、これにより研究経過・完了の報告、修士会計報告、その他使途変更事前相談手続等の義務を負って頂くこととなりますが、当面、これらの事務事項以外の義務・条件はありません。

3. 選考方法・結果通知等

- (1) 選考方法：財団委嘱の選考委員会において慎重審議の上、その答申案に基づき、平成12年7月開催予定の財団理事会・評議委員会において正式決定されます。

(選考委員) 京極 好正 (委員長)、野依 良治、名取 俊二、堀田 凱樹、潮田 資勝、牧島 亮男、志村 令郎、金澤 一郎、長尾 真
(専門委員) 助成申込の研究内容によっては、適宜専門委員を委嘱する。

(2) 結果通知等

- ・結果は決定後直ちに研究代表者宛通知されます。さお、助成決定者の一覧は各種学術関係広報資料(科学新聞、学会ニュース等)にも掲載されます。
- ・決定者への助成金贈呈は平成12年9月の予定です。

4. 応募方法

(1) 助成金申込書の作成

- ・申込書の内容・書式は当財団ホームページ上にて財団概要、助成金応募要領ともども12月以降に掲載致しますので、これを御参照ください。

ホームページアドレス http://www.dias.ne.jp/m_zaidan/

- ・申込書用紙は原則としてこのホームページにてワープロ形式(一太郎、MS-WORD、Mac版EG WORD)、で示してあるものをダウンロードの上、御使用ください。関係大学、学会等に送付済みの用紙やそのコピーを使用して頂いても結構です。上記いずれの方法にも依り得ない場合は、財団事務局宛、宛先記入済み返信用角2封筒に、160円切手添付のうえ、郵送御請求あれば用紙等お送り致します。

- ・記入上の留意点：

ワープロまたは黒ボールペンを使用し、楷書で明瞭に記入して下さい。

申込書の研究題目上部欄に申込研究題目もコード番号を御記入ください。(別添えコード票御参照。本票は平成12年度版科研費申請コードに準じたもの)

研究代表者が大学・研究所等に所属される場合は、当該大学・研究所等の所属機関の長から本研究助成申込についてのご承認を得て下さい。また、他機関に所属する共同研究者の参加が必要な場合も、共同研究者の所属機関の長のご了承をあらかじめ代表研究者よりお取り置き願います。

- ### (2) 助成申込書の提出並びに受け付け：助成申込書の正1通、副5通(コピー)を左肩上で各ホチキス留めし直接財団宛御送付ください。なお、正1通には採否結果通知に使用しますので、結果連絡先の住所・氏名ご記入の名宛シール(定形封筒用サイズ)を1枚添付して下さい。

- ### (3) 助成申込書受付の確認：助成申込書到着と同時に受付番号を採番し、御返送し

ますので、宛先住所・氏名ご記入済みの返信用はがきを同封して下さい。

財団法人 三菱財団

〒100-0005東京都千代田区丸の内2-5-2（三菱ビルディング15階）

Tel. 03-3214-5754

Fax. 03-3215-7268

（４）応募期間：平成１１年１２月２０日（月）～平成１２年２月２２日（火）

極力早めに御提出ください。

植物科学基金

若手研究者海外学会出席助成（平成12年度第1期）募集

植物科学基金では植物科学振興のため、基金の運用の一環として若手研究者海外学会出席助成を行っています。植物科学分野の学会出席であれば、本人の所属団体などにかかわらず応募できます。

1. 援助の趣旨：本援助は植物科学基金の運用の一環として行うもので、植物科学に関連して海外で開催される国際学会・国際シンポジウムに参加する若手研究者を対象として渡航費の補助を行い、もって若手研究者間の国際交流および植物科学研究の発展をはかるものとします。
2. 有資格者：大学院生、研究生、ポストドクトラルフェローなど常勤の職に就いていない若手研究者とします。
3. 本年度（第2期）の援助対象及び金額：平成12年7月1日から平成12年12月31日までに国外で開催される学会、国際学会、国際シンポジウムでの発表を行うために必要な費用のうち、渡航に関する費用の一部を補助します。1件当たり10万円以下で総額100万円以内の予定です。
4. 申込手続き：所定の用紙を事務局に用意してあります。必要事項を記入し、植物科学基金事務局お送りください。
5. 申込期限：平成12年3月31日まで（基金締めきり4月30日）
6. 選考方法：植物科学基金運営委員会により選考・決定されます。現在の運営委員会委

員は秋田重誠、今市涼子、柴岡弘郎（委員長）、東江昭夫、矢原徹一、山根久和、和田正三の7名です。

7. 選考結果の通知：申込者宛に通知します。

8. 補助金の交付：助成候補者に対し、交付申請書を提出していただいた後、出発の1ヶ月前までに指定口座に振り込みます。ただし、申請のあった学会出席について、科研費・財団助成金等の他の補助金から旅費を支出する場合には本助成金を重複して受領することはできません。

9. お問い合わせ：本助成金についてのお問い合わせは下記をお願いいたします。

（社）日本植物学会内 植物科学基金事務局

〒113-0033 文京区本郷2-27-2 東真ビル

電話 03-3814-5675

FAX 03-3814-5352

日欧科学協力事業セミナーのお知らせ

以下の要領で日欧科学協力事業セミナーが開かれます。ポスター参加を募集していますので、ご検討下さい。

日欧科学協力事業セミナー

発生物学の進歩：神経系の発生とパターン形成

(<http://www.biozentrum.unibas.ch/~sjascona/>)

オーガナイザー：Thomas Burglin, Yasushi Hiromi, Heinrich Reichert

日程：2000年3月31日－4月3日

場所：スイス、アスコナ Centro Stefano Franscini

参加費：450 Sfr（ダブルルーム・食事代込み）

参加申し込み：要旨（A4、1ページ）2部を下記の住所にお送り下さい。詳細は以下のURLをご覧下さい

(<http://www.biozentrum.unibas.ch/~sjascona/#Abstracts>)。

Erica Oesch,

Div. of Cell Biology, Biozentrum

Klingelbergstr. 70

CH-4056 Basel, Switzerland

参加者は全員、ポスター発表が可能です。一部のポスターは口頭発表に選ばれます。

メ切：2000年1月10日

問い合わせ先：Thomas Burglin (burglin@ubaclu.unibas.ch)、Yasushi Hiromi

(yhiromi@lab.nig.ac.jp)

このワークショップの直前（3月26日－31日）に同じ会場でWalter Gehring 博士主催の” Homeobox Genes in Development and Evolution” というワークショップが開催されます (http://www.csf-mv.ethz.ch/Official/Workshops/WS2000/WS2000_simple.html#gehring)。連続参加もご検討下さい。

生理活性脂質データベース LipidBank for Web の 公開について

URL: <http://lipid.bio.m.u-tokyo.ac.jp/>

まずはご覧いただいて、ぜひご意見ご批判をおよせください!

科学技術振興事業団のデータベース化支援課題に採択され、平成 8 年から作業を行ってきた生理活性脂質データベース (LipidBank for Web) が、ひとまず完成し、一般公開をすることになりました。まだ完全なものではありませんが、御覧いただき、御批判をいただきたく思います。

生理活性脂質データベースとは?

生理活性を持つ脂質化合物に関する名称、物理化学的データ、所在およびその生理活性、化学構造、IR スペクトル、MS スペクトル、クロマトグラフなどを含む画像データ、および文献データをリレーショナルに結合した複合データベースです

今回以下の 27 項目の脂質データが集積されました

ACYLGLYCEROLS	BILE ACIDS	ETHER TYPE LIPIDS
DERIVED LIPID		FAT SOLUBLE VITAMINS
FATTY ACID		CAROTENOIDS
LONG CHAIN ALCOHOL		COEZYME Q
LONG CHAIN ALDEHYDE		VITAMIN A
LONG CHAIN BASE		VITAMIN D
		VITAMIN E
		VITAMIN K
GLYCOLIPIDS		PHOSPHOLIPIDS
GLYCEROLGLYCOLIPID		PAF
SPHINGOGLYCOLIPID		GLYCEROPHOSPHOLIPID
		SPHINGOPHOSPHOLIPID
HOPANOIDS	ISOPRENOIDS	LIPOAMINO ACIDS
LIOPOLYSACCHARIDES	LIOPROTEINS	MYCOLIC ACIDS
	PROSTANOIDS	STERIODS
		WAXES

御意見は e-mail で、以下のいずれかに御連絡をお願いします

国立国際医療センター研究所
国立国際医療センター研究所
重井医学研究所

大島美恵子
八杉悦子
渡辺清博

e-mail: oshima@ri.imcj.go.jp
e-mail: yasugi@ri.imcj.go.jp
e-mail: sowa1@shigei.or.jp

<新入会員> (氏名) (正会員)	(所属)	〒	(住所)	(①)テーマ・(②)材料
清水 洋平	北海道立中央水産試験場 資源管理部管理技術科	046-8555	北海道余市郡余 市町浜中町238	配偶子形成、初期発生 メダカ、マガレイ
高橋 克	京都大学大学院医学研究科 感覚運動系病態学講座 口腔機能病態学分野	606-8507	京都市左京区聖 護院川原町54	顎顔面発生 哺乳類、ニワトリ
池田 啓子	自治医科大学生物医学	329-0498	栃木県河内郡南 河内町大字薬師寺 3311-11-1	Sixホメオボックス蛋白質 マウス
東海林 亘	東北大学加齢医学研究所 分子発生	980-8575	仙台市青葉区 星陵町4-1	神経発生 ゼブラフィッシュ
(学生) 木村 真	理化学研究所 分子腫瘍学研究室	305-0074	茨城県つくば市 高野台3-1-1	
(寄贈、海外) JUAN Arechaga	International Journal of Developmental Biology, Dept. of Cell Biology, Univ. of Basque Country		E-48940 Leloa, Spain	
<会員資格変更>				
学生→正会員 平尾 雄二	農林水産省東北農業試験場 家畜繁殖研究室		020-0198 盛岡市下厨川字赤平4	
岡藤 辰也	熊本大学大学院医学研究科 神経分化学講座		860-0811 熊本市本荘2-2-1	
宮永 裕子	Lab.of Dr. Todd Evans, Dept.of Developmental and Molecular Biology, Albert Einstein Coll.of Med.		Chanin Bldg.Rm.503, 1300 Morris Park Ave.,Bronx, NY10461,U.S.A.	
国内→海外 宮永 裕子	Lab.of Dr. Todd Evans, Dept.of Developmental and Molecular Biology, Albert Einstein Coll.of Med.		Chanin Bldg.Rm.503, 1300 Morris Park Ave.,Bronx, NY10461,U.S.A.	
海外→国内 元山 純	理化学研究所脳科学総合 研究センター 病因遺伝子研究グループ		351-0198 和光市広沢2-1	

<住所変更>

坂倉 照好	三重大学医学部病理学教室	514-8507	津市江戸橋2-174
大相 弘順	静岡理工科大学理工学部 情報システム科学	437-8555	袋井市豊沢2200-2
平尾 雄二	農林水産省東北農業試験場 家畜繁殖研究室	020-0198	盛岡市下厨川字赤平4
高山一渡辺理絵子	東北大学理学部生物学科分子 細胞生物学講座発生生物学	980-8578	仙台市青葉区荒巻青葉
安西 弘子	神奈川科学技術アカデミー 宮島「幹細胞制御」プロジェクト	216-0001	川崎市宮前区野川907帝京大学 生物工学研究センター1F
中根 良文	京都大学大学院医学研究科 付属動物実験施設	606-8501	京都市左京区吉田近衛町
大高 亮彦	東北大学医学部第二内科	980-8574	仙台市青葉区星陵町1-1
白石 洋一	名古屋大学大学院理学研究学科 生命理学専攻生体調節講座形態発生学	464-8602	名古屋市千種区不老町
山田 武	電力中央研究所生物科学部泊江分室	201-8511	泊江市岩戸北2-11-1
大隅 典子	東北大学大学院医学系研究科 器官構築学分野	980-8575	仙台市青葉区星陵町2-1
嶋田 新	農林水産省畜産試験場 繁殖部生殖内分泌研究室	305-0901	茨城県稲敷郡芝崎町池の台2
澁澤 麻実	北海道大学理学部付属 動物染色体研究施設	060-0810	札幌市北区北10条西8丁目
菊池 裕	慶応義塾大学医学部生理学教室	160-8582	新宿区信濃町35
唐沢 美香	(助)癌研究会癌研究所細胞生物部	170-8455	豊島区上池袋1-37-1
岡藤 辰也	熊本大学大学院医学研究科 神経分化学講座	860-0811	熊本市本荘2-2-1
松本 和幸	東京都立大学理学部生物	192-0397	八王子市南大沢1-1
水岸 貴代美	理化学研究所ライフサイエンス 筑波研究センター分子 神経生物学研究室	305-0074	つくば市高野台3-1-1
灰野 和	上智大学生命科学研究所	102-8554	千代田区紀尾井町7-1
井筒 ゆみ	新潟大学大学院自然科学研究科	950-2181	新潟市五十嵐二の町8050
武藤 吉徳	岐阜大学医療技術短期大学部	501-1193	岐阜市柳戸1-1
小林 隆志	九州大学生体防御医学研究所 感染防御学部門	812-8582	福岡市東区馬出3-1-1
福居 健一	山の辺病院内科	633-0081	桜井市草川60
田畑 秀典	東京慈恵会医科大学DNA医学 研究所分子神経生物学研究部門	105-8461	港区西新橋3-25-8
永野 (大迫) 麗子	通商産業省工業技術院生命工学 工業技術研究所生体情報部 斉田グループ	305-8566	つくば市東1-1
田崎 啓	理化学研究所脳科学総合研究 センター神経再生研究チーム	315-0198	和光市広沢2-1

<退会>

大山 恭司	鈴木 美輝子	(株) HBJ	広瀬 裕一	平野 寿雄
中石 裕子	国吉 久人	許 南浩	中村 卓史	

〔賛助会員〕

生命誌研究館

〒569 高槻市紫町1-1

-1125 TEL 0726-81-9750

先端テクノロジーをサポートする日京テクノス(株)

〒113 文京区本郷2-17-8鈴木ビル

-0033 TEL 03-3814-2066

三菱化学生命科学研究所

〒194 町田市南大谷11号

-8511 TEL 0427-24-6226

明治乳業(株)ヘルスサイエンス研究所

〒250 小田原市成田540

-0862 TEL 0465-37-3661

(有)共進理工“細胞分別”ナイロンメッシュ

〒113 文京区本郷5-13-1ドエル本郷205

-0033 TEL 03-3813-1073

賛助会員へのご入会のお願い

日本発生生物学会

会長 竹市雅俊

近年、ライフサイエンス、バイオテクノロジー等の言葉が広く語られ、生物学に大きな関心と注目が払われるようになってまいりました。

日本発生生物学会は、発生生物学の進歩と普及をはかるため設立された学会で、日本を主に、外国の発生学者を混じえて約1,300名を結集しております。発生学は、言うまでもなく医学・農学等の諸分野とも深い関連を有しており、最近とみに進展の著しい遺伝情報発現をめぐる諸問題、癌細胞の基礎的研究、老化の問題等も発生生物学の大きな関心の的になっております。日本発生生物学会は、これらの分野での活発な研究者を会員としております。又、本学会の刊行致しております欧文誌“Development, Growth and Differentiation”(DGD)もこの方面の国際的学術雑誌として高く評価されております。

貴社におかれましては、このような学問の重要性をすでに御承知のことと存じます。何卒、本学会趣旨に御賛同の上、賛助会員として本会を御支援賜りますようお願い申し上げます。

なお、賛助会員は年3回発行される「インフォメーション・サーキュラー」誌上に特記され、本会の刊行する欧・和文刊行物(会員名簿を含む)が配布されます。会費は、一口三万円を申し受けております。御入会の際は、入会申込書を事務局までお送り下さい。

連絡先：日本発生生物学会事務局(八杉貞雄)

〒192-0397 八王子市南大沢1-1

東京都立大学大学院理学研究科生物学教室

TEL 0426-77-2572(直通) FAX 0426-77-2559

-----切-----り-----取-----り-----線-----

日本発生生物学会賛助会員入会申込書

年 月 日

賛助会員として入会の申し込みを致します。

(_____ 口 _____ 円)

住 所

会 社 名

担当者名
電話番号

印

広告掲載のお願い

日本発生物学会は理学、医学、薬学、農学をはじめ分子生物学、細胞生物学、遺伝学など、さまざまな生物学分野で発生物学の基礎研究に興味を持つ内外の研究者によって組織されている学会であり、国内外に約1,300人の会員を持っております。

英文学術雑誌 Development, Growth and Differentiation は、日本発生物学会の機関誌で年6回発行し、国内に約1,200部、国外に約600部配布致しております。また会員にはインフォメーション・サーキュラーを年3回配布致しております。

目下、本学会では広告主を募っております。会員各位におかれましても広告主のご紹介等、是非ご協力頂きますようお願い致します。

広 告 料			
D G D 本誌	1 頁	年 6 回	150,000円
	半 頁	〃	78,000円
インフォメーション	1 頁	年 3 回	90,000円
サーキュラー	半 頁	〃	45,000円

尚、サーキュラー用の版下作製代は実費をいただきます。裏表紙は1頁10,000円高となります。

申し込み先：日本発生物学会事務局（八杉貞雄）

〒192-0397 八王子市南大沢1-1

東京都立大学大学院理学研究科生物学教室

TEL 0426-77-2572(直通) FAX 0426-77-2559

e-mail : jsdb@bcasj. or. jp

----- 切 り 取 り 線 -----

広告申し込み書

年 月 日

日本発生物学会 御中

広告の掲載をお願いしたく下記の通り申し込みます。

☐ D G D 本誌	1 頁
☐ 〃	半 頁
☐ サーキュラー	1 頁
☐ 〃	半 頁
住 所	
会 社 名	
担当者名	
電話番号	

印

アフリカ ツメガエル

澄んだ空気、汚染のない川、
沼の水等、恵まれた自然環境
の下で育った良質のアフリカ
ツメガエル。

使用目的：遺伝子組換、動物
クローン研究、細胞操作、イ
ンターフェロン培養、教材と
して生理・解剖実験に御使用
下さい。

(当養殖場では、水道水を一
切使用しておりません。)



お 問 い 合 わ せ は

養殖
販売 **北日本生物教材**
代表 三 上 正 義

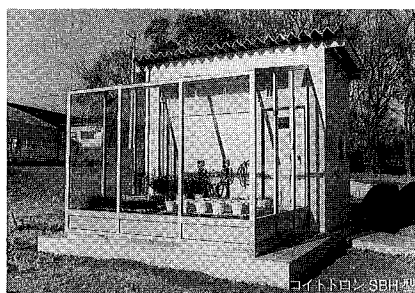
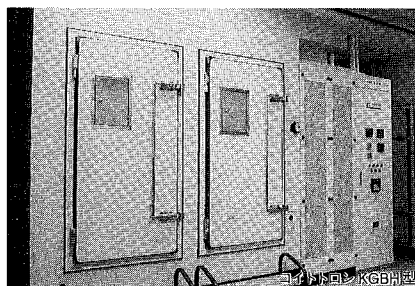
フリーダイヤル セノパスはクローン
0120-084896
(午前発注：即日発送)(月～金曜日：午前9時～午後5時)

〒036-15
青森県中郡相馬村大字坂市沢113
TEL 0172 (84) 3509
FAX 0172 (84) 3510

Kōito
安全と快適を求めて

バイオ関連の試験・研究を バックアップ

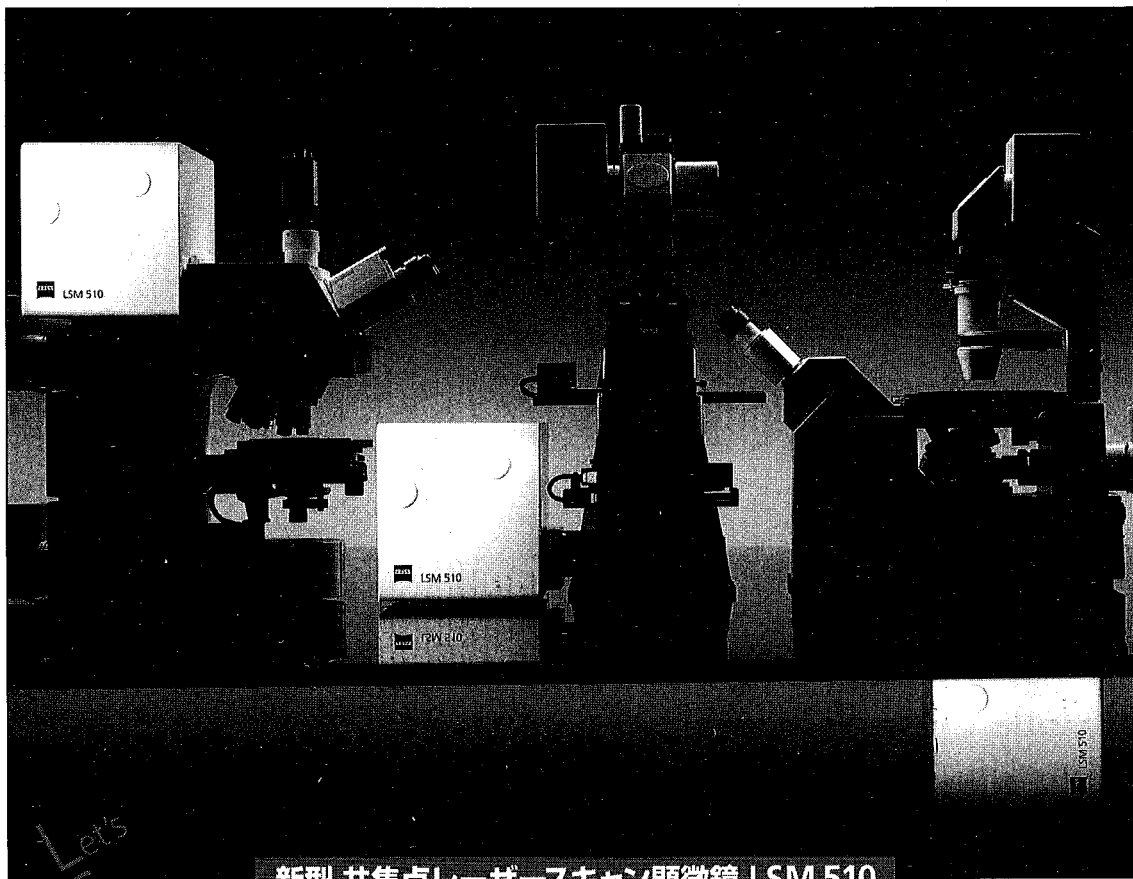
小糸工業のバイオハザード対応グロースキャビネットは、
周囲環境の影響を受けずに、圧力コントロールシステムで
実験室内を陰圧に保持します。また、コンパクトで高性能
なフィルターユニットとの組み合わせで、実験対象物への
空気流による外界からの悪影響を遮断、簡単操作をプラス
して、高精度な温・湿度を再現します。



バイオハザード対応グロースキャビネット
コイトトロン **SBH/KGBH** シリーズ

小糸工業株式会社

東京本部 〒108 東京都港区高輪3丁目5番23号(日生高輪台ビル) ☎03(3443)9846 FAX.03(3443)6570
札幌 011(722)5211 東北 022(225)7501 大阪 06(263)6371 九州 092(431)0838 筑波 0298(51)2311 沖縄 098(861)1805



Let's
See
More

新型 共焦点レーザースキャン顕微鏡 LSM 510

コンパクトそして多機能

一点の妥協もなく

あなたが評価するのは柔軟な対応力ですか？それとも最高のテクノロジーでしょうか？

LSM510は、その全てを備えています。

革新的な最高の技術、極めて扱いやすいソフトウェアがもたらす抜群の操作性、コンパクトで交換容易なスキャンングモジュールなど。徹底した妥協を許さない物作りの精神が、ここにあります。

斬新なスキャンング手法

極めてユニークなスキャンング法を採用、スキャンングエリアの設定も自由自在。従って、思いのままの不定形のスキャンが可能です。全ての3D表示、各種測定法と相まって、試料情報を余すところなく表現します。

かつて、顕微鏡に抱かれていた様々な期待が、今ここに実現します。

新しい品質基準の画像

蛍光の4ch、同時取得、各ピンホールはコンピュータコントロールされ、2,048×2,048ピクセルの高精細スキャン、4×12bitの高分解能をはじめとして、積算、オーバーサンプリング、フォトンカウンティングなど、LSM510の諸機能は、全て研究者への奉仕にあります。



ドイツ ツァイスグループ

カールツァイス株式会社 顕微鏡部

〒160-0003 東京都新宿区本塩町22番地

☎03-3355-0332 Fax.03-3358-7554

大阪☎06-282-4322 名古屋☎052-777-1411

福岡☎092-713-7821 仙台☎022-224-5621